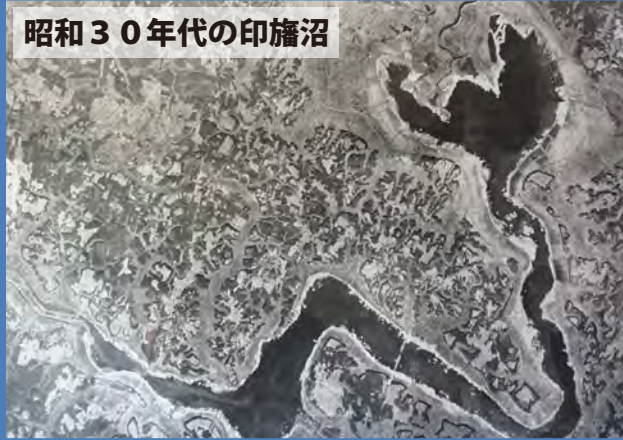




# 印旛沼開発は完成から50年を迎えました!

## 昭和30年代の印旛沼



昭和30年代まで印旛沼は天然の湖沼で、利根川の洪水による沼周辺の浸水被害や、安定した用水の確保に苦労していました。これらの問題を解消したのが1969年、今から50年前に完成した「**印旛沼開発事業**」です。

江戸時代からの悲願であった印旛沼の洪水を東京湾や利根川へ排水することを可能とし、さらには干拓により農地を広げた上で、印旛沼の水位を水門で管理することで、農業だけでなく水道・工業用水にも計画的に利用できるようにしました。



## 印旛水門と印旛機場



洪水時に水門を閉め、機場ポンプで沼の水を利根川へ排水します。



## 印旛捷水路



干拓で分断された北沼と西沼の水をスムーズに流すために新しく掘削された水路です。

## 大和田機場と 疏水路（新川・花見川）



新川と花見川を掘削してつなぎ、その境に東京湾にポンプ排水するための大和田機場を作りました。



## 中央干拓地



沼全体で約1,213ha（八千代市面積の約1/4）の農地を生み出しました。

## 酒直水門と酒直機場



水門で沼の水位を管理し、沼の水が少ないときはポンプでくみ上げます。

